

2008●図書館展示 7月

2008年6月30日～8月1日



生誕 100年



ルロイ・アンダーソン



Leroy Anderson



企画●国立音楽大学附属図書館広報委員会

場所●図書館ブラウジングルーム

生誕 100 年 ルロイ・アンダーソン

Leroy Anderson

『シンコペイテッド・クロック』、『タイプライター』、『トランペット吹きの日』、『そりすべり』...

小・中学校の音楽鑑賞や、テレビのコマーシャル、映画など、誰もが聴いたことのあるこれらの作品を作曲したルロイ・アンダーソン。

しかし、彼の作品のすべてが知られているわけではありません。

今回の展示では、生誕 100 年を迎えたルロイ・アンダーソンを紹介します。



目次

| | |
|-----------|---|
| アンダーソンの生涯 | 2 |
| アンダーソンの作品 | 3 |
| アンダーソンの言葉 | 4 |
| 展示資料紹介 | 5 |

企画・構成 国立音楽大学附属図書館広報委員会

アンダーソンの生涯

ルロイ・アンダーソンは 1908 年 6 月 29 日（19 日説あり）マサチューセッツ州ケンブリッジでスウェーデン移民の両親の元に生まれました。父ブリューワー・アントンは郵便局員で音楽好きでした。母アンナ・マガリータは教会オルガニストを務め、アンダーソンにピアノを教えました。

ケンブリッジ高校で学んだ後、1926 年にハーヴァード大学に入学。ここで理論をウォルター・スポールディングに、対位法をエドワード・バラントインに、和声をジョルジェ・エネスコに、作曲をウォルター・ピストンに学びました。ニューイングランド音楽院にも通い、ヘンリー・ギデオンのピアノを、ガストン・デュフレーヌにコントラバスを師事。1929 年に芸術学学士号を、1930 年には芸術学修士号を取得してハーヴァード大学を修了し、1930 年からラドクリフ大学で音楽を教えるかたわら、ハーヴァード大学バンドの指揮やダンスホールのダブルベース奏者、マサチューセッツの教会のオルガニストなども務めました。

1931 年から 1935 年までハーヴァード大学で言語学の研究員となり、1935 年にはゲルマン語とスカンジナビア諸語の研究により博士号を授与されました。

最終的に音楽家として自活することを 1942 年に決心するまでの間、言語学者としてノルウェー語、アイスランド語、スウェーデン語、デンマーク語、オランダ語、ドイツ語、フランス語、イタリア語、ポルトガル語の研究を続けていました。

1938 年に音楽家としての転機が訪れました。ボストン交響楽団のマネージャーの求めによってハーヴァード大学の学生歌を編曲して提出したところ、指揮者アーサー・フィードラーの目に止まりオーケストレーションの能力を激賞された上、ボストン・ポップス・オーケストラのための作曲と編曲をしてほしいと依頼されました。彼の作曲した「ジャズ・ピチカート」「ジャズ・レガート」はボストン・ポップスで演奏され好評を得ました。そして、アンダーソンの作品は次々とボストン・ポップスで紹介され、一時期ボストン・ポップスの副指揮者も務めました。

1942 年、米軍に入隊し、第二次世界大戦中はスカンジナビア語担当の情報将校としてペンタゴンで働きました。これに先立って結婚するとともに、学業を断念し、作曲の道に進みました。

1946 年に除隊後、本格的に作曲活動を再開し、彼の最初のヒットナンバー「シンコペイテッド・クロック」を作曲。これはゴールドディスク賞を受け、1951 年のビルボードのシングル・チャート 12 位まで昇りました。「シンコペイテッド・クロック」は 1959 年に WCBS により「ザ・レイト・ショウ」のテーマ音楽に採用されて有名になり、1970 年代に入ってミッチェル・パリッシュ がこれに詩を付けてからはその他の作品の多くに歌詞が付けて歌われるようになりました。

また、1950 年代には自らスタジオオーケストラを編成して、自作のレコードを出し、「ブルー・タンゴ」は 1952 年のビルボードのシングル・チャート 1 位になりました。

1953 年に作曲された「ピアノ協奏曲 八長調」は 50 年代始めに 2 度演奏されて以来演奏されず、アンダーソン自身も作品リストから外しました。1989 年、遺族の許可を得て、トロントで復活演奏がされました。同時に初録音も行われました。

1957年、メレディス・ウィルソンの「76本のトロンボーン」のオーケストレーションを担当。

これに刺激を受け1958年、第一次世界大戦以前のサイレント時代の映画界を舞台にしたミュージカル「ゴールドロック」を作曲。同年10月からブロードウェイのランド＝フォンタン劇場で上演されたこの作品はトニー賞を受賞しましたが、商業的には成功しませんでした。

以後ミュージカルを書かず、管弦楽曲の小品の作曲を続けました。

また、1968年からコネティカット交響楽団などの首脳として音楽普及に力を注ぎました。

アンダーソンは1975年5月18日、コネティカット州ウッドベリーの自宅で肺ガンのため66歳で死去しました。

1988年に「作曲家の殿堂」入りを果たしました。彼の音楽は今でもポップス・オーケストラの定番レパートリーとして演奏され続けています。

アンダーソンの作品

学者や教師として活動が続けるかたわら、ダンスバンドのミュージシャンとして生計を立てた経歴からもわかるように、アンダーソンの音楽はタンゴやサンバ、ラグタイム、ジャズなどの同時代のポピュラー音楽の影響が強く、また、曲中でタイプライターや紙やすりのような日用品を「独奏楽器」として使ってすばらしい音楽を作っています。こういったことで彼の音楽は、誰でも親しみやすい「ライト・ミュージック（軽音楽）」として知られています。

その親しみやすさが、小学校の音楽教育の教材として使われる一因となっているかも知れません。しかし、その親しみやすさが、小品ばかり注目されるという現象を招きました。

アンダーソン自身の指揮による作品集の録音以外、まとまったアンダーソンの作品の録音はあまりありませんでしたが、生誕100年の今年、廉価盤レーベルのナクソス NAXOSにおいてレナード・スラットキンとBBCコンサート・オーケストラによる管弦楽曲全集が進行中で、すでにピアノ協奏曲や多数の世界初録音を含むCD2点が発売されています。（CD発売番号：第1集＝8.559313、第2集＝8.559356。「NAXOS MUSIC LIBRARY」で試聴できます。）

また、アンダーソンは編曲者としても、ボストン・ポップスのための映画のヒット曲の編曲や、アイルランド民謡を編曲した「アイリッシュ組曲」、「クリスマス・フェスティバル」、「クリスマス・キャロル組曲」などのクリスマス音楽等、数々の作品を残しています。

アンダーソンの言葉

1947年にアンダーソンが書いた手紙より

“私にわかるのは、アイデアを考えれば考えるほど、より多くのアイデアを得られるということです。音楽を書けば書くほど、書くべき音楽が思い浮かんでくるのです。これは全ての創造的な作品について言えることだと思います。(中略)

単純な作品の方が大抵書くのが難しく、より長い時間を要することに気がつきました。単純であるが故に、たとえ一小節であっても退屈さが際立ってしまうのです。”

出典:Leroy Anderson on composing(http://www.pbs.org/sleighride/From_Leroy/Composing.htm)

1953年、Newton High Schoolの学生との対話より

“自分で本当に納得できるまでは、作品を公開することはありません。1~2週間待ってじっくり考えて、もう一度新たな気持ちに立ち返った時、それでもその作品に情熱を持てれば良いのですが、そうでないのなら公開しない方が賢明です。他の人だって夢中になってはくれませんが、それを自分で理解すべきです。言い換えれば、自分で自分の最悪な批評家になる必要があり、そのため、作品を本当の意味で完成させるまでにはそれなりの時間がかかるのかもしれない。”

出典:High School Students Ask Leroy Anderson...
(http://www.pbs.org/sleighride/From_Leroy/Students_Ask.htm)

1960年代、WTIC Radioのインタビューより

“私には好みは何もありません。(中略)プロの音楽家ならあらゆるタイプの音楽に興味を持っているはずで、もしそうでないのならプロとして音楽に関わらない方が良いでしょう。何をすることも非常に視野が狭くなってしまい、全ての音楽を好きになるよう努力しなければならないのはとても不幸なことです。個人的な理由で特に魅力が感じられなかったとしても、他の人が良い音楽だと言えばそれを受入れなければならないのです。”

出典:Leroy Anderson on Christmas and Christmas Music
(http://www.pbs.org/sleighride/From_Leroy/xmas_music.htm)

1968年のアンダーソン自身による論文より

“[製品と音楽の]2つの間には根本的な違いがあります。製品は形のあるもので、目に見えるし、評価したり、研究所でテストしたり、需要があるかどうかを調査したりすることができます。音楽作品は実体のないもので、人々に魅力を与える性質や特徴は、人々がその音楽を聴く、それも時には何度も聴くまでは明らかにならないのです。

もし作曲家が意図的に人気が出る曲を書くことができるなら、ホーギー・カーマイケルの作品は全て「スターダスト」のように有名になっているでしょうし、私の作品は全て「シンコペイテッド・クロック」と同じくらい頻繁に演奏されているでしょう。残念ながら、どちらもそうはなっていないのが事実です。(中略)

ちなみに、もし確実に有名になる曲を書く方法を知っている人がいるなら、その秘密を知りたいものです。ホーギー・カーマイケルだってきっとそう言うでしょう。”

出典:The Syncopated Clock "...still ticking along"
(http://www.pbs.org/sleighride/From_Leroy/Syncopated.htm)

展示資料

パネル

ルロイ・アンダーソン

サインはアンダーソン自身のもの。

出典: "Conductors and composers of popular orchestral music : a biographical and discographical sourcebook" p6. 請求記号 J86-765

ルロイ・アンダーソンとアーサー・フィードラー

1972 年、ボストン・ポップスの演奏会にて。1938 年、フィードラーはアンダーソンにボストン・ポップスのための作曲と編曲を依頼した。それが、アンダーソンの作曲家への一歩となった。

出典: "Instrumentalist" Vol.44 No.9 p31. April 1990 請求記号 P88 44(9)

ルロイ・アンダーソン

自宅にて、1950 年代。

出典: "Clavier" Vol.43 No.6 p20. July/August 2004 請求記号 P295 43(6)

録音セッション中のアンダーソン

出典: CD "The best of Leroy Anderson" 解説書

"American piano classics"

TELARC, 1993 請求記号 XD61162

1989 年、トロントで復活演奏がされた「ピアノ協奏曲 八長調」の世界初録音を収録。

"The best of Leroy Anderson"

MCA, 1997 請求記号 XD61163

アンダーソンが 1950 ~ 1954 年に録音した自作自演のモノラル録音をまとめた CD。

1962 年のステレオ録音しかない 3 曲が追加されている。

『ルロイ・アンダーソン・コレクション』

ユニバーサルピクチャー、1998 請求記号 XD61132-3

アンダーソンが 1952 ~ 1962 年に録音した自作自演の録音をまとめた CD。

アンダーソンは同じ曲をモノラルとステレオで録音しているが、ステレオ録音の方が収録されている。

ミュージカル「ゴールドフィロックス」から 8 曲と、編曲作品「アイリッシュ組曲」、「スコットランド組曲」から 2 曲が収録されている。

"Leroy Anderson : Classical Juke Box"

NAXOS, 2002 (NAXOS MUSIC LIBRARY で試聴可能)

アーサー・フィードラーとボストン・ポップスによるアンダーソン作品のモノラル録音(1947 ~ 1950 年)。国内盤(請求記号 発注中)に収録されている後に録音されたステレオ録音とは別のもの。「クラシカル・ジュークボックス」「シンコペイテッド・クロック」「フィドル・ファドル」「そりすべり」「アイリッシュ組曲」等を収録。

"A Leroy Anderson Christmas"

DECCA, 2004 請求記号 XD61164

アンダーソンが編曲したクリスマス音楽のアンダーソン自身の指揮の録音をまとめた CD。

「そりすべり」の他、1950 年に編曲した「クリスマス・フェスティバル」、1955 年に編曲した「クリスマス・キャロル組曲」3 曲が収録されている。

"Leroy Anderson : Orchestral Music 1"

NAXOS, 2008 (NAXOS MUSIC LIBRARY で試聴可能)

生誕 100 年に合わせて、ナクソス NAXOS において進行中のレナード・スラットキンと BBC コンサート・オーケストラによる管弦楽曲全集の第1巻。「トランペット吹きの日」「フィドル・ファドル」など有名曲の他、「ピアノ協奏曲 八長調」等を収録。

"Leroy Anderson : Orchestral Music 2"

NAXOS, 2008 (NAXOS MUSIC LIBRARY で試聴可能)

生誕 100 年に合わせて、ナクソス NAXOS において進行中のレナード・スラットキンと BBC コンサート・オーケストラによる管弦楽曲全集の第2巻。世界初録音の「ウッドベリー・ファンファーレ」「ハーヴァード・フェスティバル」「沸騰するヤカン」「ワルツ・アラウンド・ザ・スケール」「ドラムの子守歌」の他に、「ジャズ・レガート」「ジャズ・ピッツィカート」「弦楽オーケストラのためのクリスマス・キャロル組曲」等を収録。

楽譜

"Heart of stone : pyramid dance for mixed voices (S.A.T.B.) with piano accompaniment"

New York : Ankerford Music : sole selling agent, Mills Music, c1960 請求記号 F1-452

1958 年に作曲された第一次世界大戦以前のサイレント時代の映画界を舞台にしたミュージカル「ゴールデロック」の中の1曲。同年10月からブロードウェイのランド＝フォンタン劇場で上演されたこの作品はトニー賞を受賞したが、商業的には成功しなかった。

"Concerto in C for piano and orchestra"

[Woodbury, Conn.] : Woodbury Music ; Bryn Mawr, Pa : Sole distributor: Theodore Presser, [1995], c1978
請求記号 G25-954

1953年に作曲されたが50年代始めに2度演奏されて以来演奏されず、アンダーソン自身も作品リストから外した。1989年、遺族の許可を得て、トロントで復活演奏がされ、同時に初録音も行われた。

"Bugler's holiday : Bb cornet trio with band"

Melville, N. Y. : Belwin Mills, c1954 請求記号 H21-691

邦題「トランペット吹きの日」もしくは「ラッパ吹きの日」。1954年作曲。

原題の"Bugler"は一般に軍隊などのラッパ手を指す。ラッパ手が今日は休日で大喜びという感じの明朗な曲。しかしこれを演奏するトランペット奏者はひどく忙しい。小学校の運動会で徒競走のときにかかる「あの曲」としても有名である。

"Fiddle-fiddle"

Miami, Fla : Warner Bros. Publications, c1948 請求記号 H40-262

邦題「フィドル・ファドル」。1947年作曲。

曲名は「くだらない」とか「バカ騒ぎ」という意味のスラングだが、それとフィドル(ヴァイオリン)をかけている。そのため、ヴァイオリン・セクションが大急ぎで弾きまくる曲になっている。徒競走のBGMにぴったりなので運動会でよく使われる。

"The syncopated clock : for full orchestra"

Miami, Fla : Warner Bros. Publications : Belwin, c1946 請求記号 H42-338

邦題「シンコペイテッド・クロック」。1945年作曲。

打楽器群が演奏する、時計の時を刻むシンコペイト(切分)された音をユーモラスに描写した曲。アメリカのテレビ番組「ザ・レイト・ショウ」のテーマ曲として使用され、アンダーソン指揮のレコードはミリオン・セラーとなった。

"Sleigh ride"

Miami, Fla : Warner Bros. Publications : Mills Music, c1948 請求記号 H42-339

邦題「そりすべり」。1948年作曲。

同年5月にアーサー・フィードラー指揮ボストン・ポップスが初演。冬のそり遊びの楽しさを描いた曲。クリスマスシーズンに欠かせない曲のひとつ。1950年にミッチェル・パリッシュが歌詞を付け、ピング・クロスビーをはじめ多数の歌手に歌われた。

録音資料

「タイプライター：ルロイ・アンダーソンの音楽」18曲収録

エリック・カンゼン指揮、ロチェスター・ポップス管弦楽団 1985年録音 請求記号 XD1560

「シンコペーテッド・クロック：ルロイ・アンダーソン名曲集」15曲収録

モリス・アブラヴァネル指揮、ユタ交響楽団 1967年録音 請求記号 XD18087、XD55682

「タイプライター：ルロイ・アンダーソン・ベスト」25曲収録

レナード・スラットキン指揮、セントルイス交響楽団 1993年～1995年録音 請求記号 XD33255

「ルロイ・アンダーソン・コレクション」47曲収録

ルロイ・アンダーソン指揮、1952～1962年 請求記号 XD61132-3

参考文献

Burgess Speed, Eleanor Anderson, and Steve Metcalf.

"Leroy Anderson : a bio-bibliography"

Westport, Conn : Praeger, 2004 請求記号 X-044/A547/S

ルロイ・アンダーソンに関する唯一の書誌。アンダーソンの伝記、作品と演奏記録、ディスコグラフィ、関連書誌が掲載されている。

Reuben Musiker and Naomi Musiker.

"Conductors and composers of popular orchestral music : a biographical and discographical sourcebook"

Westport, Conn : Greenwood Press, 1998 請求記号 J86-765

ポピュラー音楽の作曲家と指揮者の経歴・ディスコグラフィが掲載されている。

アンダーソン公式サイト

Official Leroy Anderson website (<http://www.leroyanderson.com/>)

アンダーソンの遺族による公式サイト

2008 図書館展示 7 月

生誕 100 年 ルロイ・アンダーソン
Leroy Anderson



展示パンフレットは図書館ホームページからも入手できます。(バックナンバーも公開しています。)

<http://www.lib.kunitachi.ac.jp/tenji/tenji.htm>

2008.7.2 編集 国立音楽大学附属図書館広報委員会:三宅巖・二塚恵里